

1 研究主題 「自ら考え、ともに学び合う子の育成」
—国語科を中心として—

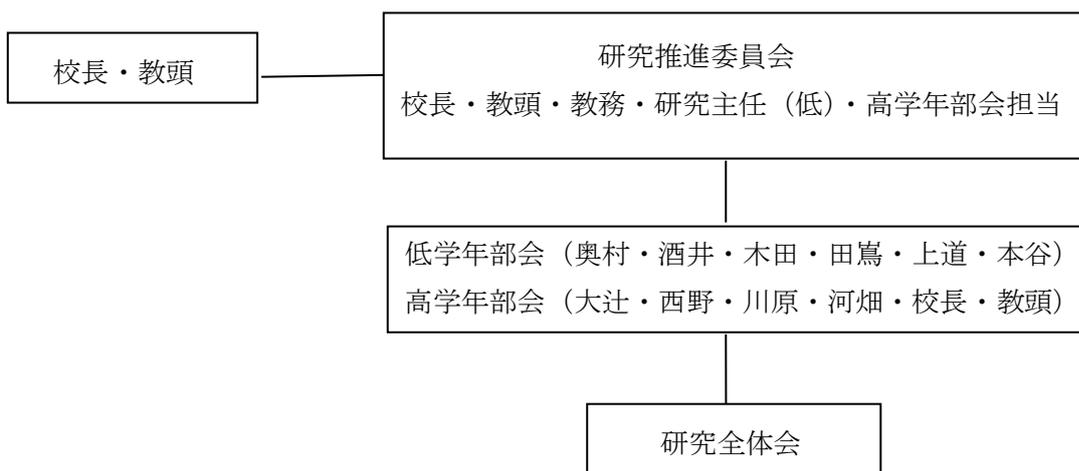
2 主題設定の理由

昨年度より、研究の中心を算数科から国語科へ変更した。本校児童の国語科の実態は、「読むこと」の系統が比較的明確な説明的文章においても、力が積みあがっていない状態であった。そこで、記述に即して確かに読み取る力や、思考力を働かせて主体的に読み取る力など「読むこと」の力を高めるために、「説明的な文章」を中心に研究を行った。

昨年度の成果としては、教材分析や単元構想に重点を置いて授業改善を進めた結果、児童の実態に応じた言語活動の開発・選定や、児童の興味関心が持続する、効果的な単元を貫く言語活動の実践ができたと考える。また、児童と教師が単元を通して同じゴールに向かって見通しを持った学習ができていたということも挙げられる。一方、文章の構造や内容を把握したり、必要な言葉や情報を選んだりする力は、まだ不十分で、学んだことを色々な場面で汎用的に使うことができる児童は少ないというのが課題である。

このような成果や課題を踏まえ、今年度も「説明的な文章」を中心に研究を継続する。「読み」の基礎を低学年からしっかりと積み上げ、繰り返し活用していくことで主体的に「読む」ことができる児童を育成する。今年度は、児童が主体的な「読み」から自分の考えを形成できるように、さらに授業改善や全校共通の実践を工夫していきたいと考える。このように自分自身で読み深め、考えを形成し表現する力は、他教科においても生きてはたらく力になるはずである。日常生活の様々な場面で学んだ力が使えたという経験を積むことで、児童は学んだ意味を実感することができ、それがさらに主体的な学びにつながっていくのではないかと考える。

3 研究の組織



4 研究構想図

〈学校教育目標〉 自らの生き方を主体的に拓き、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成

【研究主題】

自ら考え、ともに学び合う子の育成
—国語科を中心として—

【研究を通してのめざす児童の姿】

- 主体的に学ぶ子
 - ・自ら課題を発見し、主体的・協働的に解決しようとする意欲をもつ。
- 自分の考えを持ち、表現する子
 - ・自分の考えをもち、相手を意識して考えの根拠や筋道を明確に表現できる。
- 学び合い深め広げる子
 - ・より良い解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスを経て、自分の考えを再構築することができる。
- 既習の知識・技能を身につけている子
 - ・基礎的・基本的な知識や技能を身につけている。
 - ・一時間や単元で学習したことを身につけている。

授業改善（学びの指針プラス 2条・3条・5条）

【研究内容 1】

- ① 目指す姿を明確にした単元構想
- ・つきたい力の明確化
 - ・「？」が持続する言語活動の開発と選定
 - ・学びを活用・応用する場の設定

【研究内容 2】

- ② 自分の考えを持ち、表現できる授業
- ・「読み」の力を高める活動の工夫（しかけ）
 - ・学びの形態の工夫（個人・ペア・グループ・集団）
 - ・学びを自覚化できるふりかえりの工夫

学習意欲の向上
主体的な学び
学力の向上

学び合える基盤づくり

学び合える学習集団づくり

- ・学びの姿勢づくり・北前プロジェクトの継続実践
- ・友達の話を傾聴できる学級
- ・めざす授業像の共有・学び合うよさの共有

語彙力・言語力を育てる活動

- ・暗唱
- ・読書活動
- ・スキルタイム
- ・様々な機会に書く活動を設定

温かい学級づくり

生徒指導の三機能がある学級づくり

- 検証
- ノートやプリント等、日常の児童の記録の分析から
 - 評価問題の到達度から
 - アンケートや実態調査から

5 研究の内容

(1) 授業改善

①目指す姿を明確にした単元構想

単元の目標を達成した児童の姿を明確に持ち、児童の実態に合わせてどのような過程で学びを深めていくのかを考える。また、単元のまとまりの中での本時の位置づけを明確にし、各時間においても目標を達成した児童の姿を具体的にイメージする。

ア. つけたい力の明確化

年間計画・指導事項配列等をもとに、前後の学年の指導事項を確認し、系統性を考えながらつけたい力を明確にする。児童がどのような姿になれば、力がついたと判断できるのかという規準を明確に持つ。

イ. 「？」が持続する言語活動の開発と選定

つけたい資質・能力がつくような言語活動の開発と選定を行う。単元を貫く言語活動の中で、大きな目標に向かって、毎時間「？」が持続し、児童の意欲や主体的な学びが持続するような工夫をする。そのためには、日常生活と関連付けた設定にし、学ぶ必要感や目的、相手意識を明確にする必要がある。

ウ. 学びを活用・応用する場の設定

その教材だけにとどまる指導ではなく、一時間の授業の中、もしくは単元の中において、習得した知識技能を活用・応用する場を繰り返し設定する。

②自分の考えを持ち、表現できる授業

単元のまとまりや流れを意識しながら、1時間1時間の授業の中で山場のある授業をめざす。児童が主体的に「読み」に向かい、自分で考える時間の確保をする。また、自分の考えを話したり、書いたりする場面を多く取り入れるようにする。

ア. 「読み」の力を高める活動の工夫（しかけ）

授業の中で、児童自らが課題を発見し、その解決のために「読みたい」「考えたい」「話したい」「聞きたい」という思いが生まれる場面を作る。そのためには、・文章を隠す・文章を比較する・並べ替える 等、思考をゆさぶる意図的なしかけや発問の工夫をする。

イ. 学びの形態の工夫（個人・ペア・グループ・集団）

国語科では、与えられた資料を使い、ある目的に応じて読むことを求められる。個人の読みを学び合いの場に出し、他者の読みに出会うことで、新しい視点や自分と異なる読みに出会うことができる。それらの読みの中で、目的に合った最適な読みを子どもたち同士で考え、比較したり統合させたり、発展させたりすることで、子どもたちが考えを再構築していけるようにする。そのために最適な学習形態を選択する必要がある。どうしてその学習形態を選んだのかという目的意識をしっかりとって、活動を工夫することで、ねらいにせまることができ、さらに、子どもたちにも自ら学習形態を選択する力が育つと考える。

ウ. 学びを自覚化できるふりかえりの工夫

児童は、自身の変容を自覚化できることで、学ぶことの意味を感じ、次への学習意欲につながっていく。授業や単元の終わりには、学んだことや自分の考えの深まりを書いたり、話したりして整理することで学習したことがより浸透すると考える。また、集団で学んだことを個に戻すことで、より深い理解につながると考える。このような多様なふりかえりを工夫していくことで、主体的に学ぶ姿勢が身についていくと考える。

(2) 学び合える基盤づくり

①学び合える学習集団づくり

ア. 学びの姿勢づくり・北前プロジェクトの継続的实践

学び合う授業をつくるには、学習規律が大切である。時間を守る・学習の準備・姿勢・話し方・聞き方などを基本とし、教師それぞれがもっている指導のよさを出し合い、共通理解を図った上で、全学年共通の取り組みをしていく。「北前プロジェクト」を継続し、『①授業は自分たちの声でスタート②自分から手を挙げてハリのある声で③「聞いたよ」の反応』の実践・レベルアップに取り組んでいく。

イ. 友達の話を傾聴できる学級

友達の発言を「わかりました」「他にあります」という決められた言葉で受け止め、自分が発言することを優先するのではなく、友達の発言を傾聴することで、より深く考えることができると思う。まずは教師自身も子どもの発言をよく聞くことから始める。

ウ. めざす授業像の共有・学び合うよさの共有

教師と児童が自分たちの目指す授業像を出し合い、折に触れてふりかえり、目標に向かって進むことが主体的に学ぼうとする姿勢につながっていく。

②語彙力・言語力を育てる活動

ア. 暗唱・音読活動

毎日朝の会に、全学年が暗唱・音読に取り組む。「話す力」「聞く力」のスキル向上のため、「張りのある声で」をめあてに課題に取り組む。低学年（1，2，3年）・高学年（4，5，6年）のくくりで課題を設定している。くくりの学年内で、合同練習をしたり、聞き合ったりする機会を設け、意欲や活気を持たせる。文化祭の各学年の発表は、日々の暗唱を披露する場になっている。

イ. 読書活動

朝読書の時間を有効に活用し、児童が幅広い本に親しめるような取り組みをする。図書館司書と協力し、各学年に「おすすめの本」のブックトラックを置き、自分で選んだ本以外にも幅広い本に触れる環境を整備する。毎月、家庭読書の日には、家庭の協力も得て、家庭で読書することを宿題にする。年に2回、必読書の「チャレンジ月間」を設けて、読書の質の向上を目指す。

ウ. 帯タイムの活用

「確かな学力と活用力」の育成をめざし、毎日、朝読書後の15分間にスキルタイムを行う。月・水曜日は、国語、火・木曜日は、算数の基礎基本の問題に取り組む。金曜日は作文に取り組む。毎週水曜日の5限終了後の20分間、『かもめタイム』を実施する。全学年「ことばの力」の基礎基本の定着に加え、活用力問題にも取り組む。

エ. 様々な機会に書く場を設定

各教科において、課題に対しての予想・自力解決・ふりかえりなどの様々な場面で「書く」時間を設定する。自分の考えを順序立てて書いたり、ポイントをしばって書いたりする力をつける。そのために書き方の型を与えたり、視点を与えたりといった各学年に応じた手立てを行う。授業の後には、定期的に自分のノートをチェックし、「書く」ことの振り返りする。そのことで、自分の思いや考えを書いていくノートが良いノートだという意識づけをしていく。他にも、様々な場面において、正確に書くことを求められる場面を除き、まずは間違いを恐れずにどんどん書かせ、「書く」ことを厭わない児童を育てていく。

6 研究計画

- ・ 全員授業公開する。
- ・ 全体授業を各学年 1 回ずつ行う。(計 6 回)
- ・ 指導案検討や模擬授業、実践、授業整理会を通して、教材や指導過程・指導方法について研究する。
- ・ 指導主事から助言を頂く

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画の作成 ・ 4 月 26 日 (金) 研究全体会 (今年度の研究計画) 	
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力調査・基礎学力調査 第一次分析 ・ 6 月 模擬授業 (5 年) 	「北前プロジェクト」確認期間
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月 全体研究授業 (5 年) ・ 6 月 模擬授業 (3 年) 	
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月 2 日 (火) 要請訪問 (3 年) ・ 7 月 研究全体会 (2 学期からの研究の重点について) 	
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力調査・基礎学力調査 第二次分析 ・ 8 月 小中合同研究会 指導案検討・模擬授業 (1 年) ・ 8 月 模擬授業 (6 年) 	
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 模擬授業 (6 年) ・ 9 月 26 日 (水) 小中合同授業研究会 (1 年) 	「北前プロジェクト」重点取り組み期間
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月 10 日 (木) 計画訪問 (6 年) ・ 10 月 模擬授業 (4 年) ・ 10 月 全体研究授業 (4 年) 	
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月 模擬授業 (2 年) ・ 11 月 全体研究授業 (2 年) 	
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月 研究全体会 (3 学期の研究の重点について) ・ 2 学期までの研究のふりかえり (各学年) 	
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究のまとめ 	「北前プロジェクト」重点取り組み期間
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 月 研究全体会 (今年度の成果と課題及び来年度の方向性) 	
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度に向けて 	